

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

日時：令和7年11月26日（水）16：00～17：30

場所：山梨県立笛吹高等学校 大講義室他

《次第》

(1) 分科会 16：00～16：50

1 分科会の趣旨説明

生徒募集に繋がる魅力化の方法、望ましい系列のあり方、現在の編成のメリット・デメリットについて考える機会としたい。

2 代表生徒との熟議「笛吹高校の魅力化」の発表

<評価検証チーム>

- ・メディア発信部を設立し、学科や部活動の取り組みを SNS や地域メディアで積極的に発信することで中学生などにも宣伝になるのではないかと。
- ・進路サポートや資格取得の実績を見える化し、キャリア形成の強みを広報したらどうか。
- ・学科横断型の探究活動を学校の特色としてブランド化し、他校との交流やコンテスト参加を促進する。

<地域連携チーム>

- ・総合学科の強みを発信し、幅広い学びや探究活動の内容を SNS や動画で具体的に紹介する。
- ・地域連携を深化するため農業・観光・ワイン文化をテーマにしたプロジェクトや交流イベントを積極的に実施する。
- ・キャリア教育を強化するため地域企業や大学と連携し、専門分野についての体験的また実践的な学びを提供する。
- ・「地域に根ざした多様性」「Authentic な学び」をキーワードにアイデンティティを明確化する。
- ・生徒の成果や野菜販売をふるさと納税返礼品として PR し、SNS や地域メディアで認知度を高めることで広報戦略を多様化する。

<広報チーム>

- ・地域と共に歩む学校を目指し、伝統を大切にしながら、地域課題解決や観光連携を推進する。
- ・学びのデジタルツール、生成 AI「ももりんジェミニ」を活用し、笛吹高校独自の教育活動を展開する。

- ・魅力的なイベント・活動として文化祭やネット販売「ももりんショップ」で生徒の創造力を発揮。
- ・PR 戦略の充実として、SNS 発信、PR 動画、YouTube 活用で学校の魅力を広く発信する。

<生徒育成チーム>

- ・学園祭や笛吹フェスタで、普通科を含め全生徒が得意分野を活かせる企画を充実させる。
- ・学科間や学年間の交流会を増やし、協働や多様な価値観を学ぶ場を創出する。
- ・他校との交流や「将来を語り合う場」を設け、地域・社会とつながる機会を広げる。
- ・マスコットキャラクターやアニメ制作を通じて、学校の個性と魅力を発信する。

(2) 全体会 17:00~17:30 司会：第2

- 1 はじめの言葉
- 2 会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 議事（議長：会長）
 - ・少子化に伴う生徒募集について

委員 A

- ・果樹地域における高校は笛吹高校のみ。地域の果樹産業を今後支えていく生徒を育てていく役割がある。学科数に関わらずその点も大事にしてほしい。
- ・果樹栽培に関わりたい人口も増えていて、収入も増えている。

委員 B

- ・総合学科の1学科が良いのではないか。
- ・人間関係に行き詰った場合、総合学科のように複数のクラスがあるとクラス替えによる解決をしやすい。
- ・農業科について生産性のある学びについての予算削減は問題がある。県などに働きかけて予算について拡大していただく働きかけが必要ではないか。

委員 C

- ・ 笛吹高校開校までの経緯から考えて総合学科 1 学科にすることに賛成。
- ・ 何が学べるのか系列の名称を分かり易くするとよいのではないか。
- ・ 環境緑地系列はどのような系列なのかなど、他の系列についてもわかりやすくする必要がある。
- ・ すべて総合学科にすると加配が増えると聞いている。先生方が減っている現状で、加配は重要となるのではないか。

委員 D

- ・ 今日生徒と話して、笛吹高校の魅力として多様性がでてきたと感じた。生徒の意見を聞いていると 3 学科を残す意見とを感じるが、18 歳人口の低下は大きな影響があり生徒数も減ってくるので、個人的な意見としては総合学科 1 学科が良いと思う。

委員 E

- ・ 学校を運営していくときは、人的整備と環境整備が大切。その時に、教員が確保できないということは、問題になるのではないか。
- ・ 生徒からも多様化ということがあった。多様化についてはアピールしていくことによって、総合学科 1 学科にすることで人の整備、環境整備をしていくことが良いのではないか。
- ・ 中学校にもしっかり説明して、先ほどの生徒さんのように意欲を持って対応できるようにしてほしい。
- ・ 山梨大学も地元の生徒たちが受験してくれない。高校生とか大学生と一緒に活動することも大切ではないか。

委員 F

- ・ 教員の確保ができなければよくない。しっかり教員を確保できる形でやっていただく。

委員 G

- ・ 探究の学びが発表で完結してしまうのではないか、その後につながる稼ぎ方など金融に関することもつなげて学べるといい。
- ・ 生成 AI や投資を学びたいという子供たちがいた。生成 AI を使っても最

後自分が決めなければならない。その力を学校で養っていくことが大切。

委員 H

- ・総合学科 1 学科が良いのではないか。
- ・先ほど子供たちの話を聞いても、いろんな分野を見てみたいと思っている。小中学校でもキャリア教育ができていない。
- ・総合学科に入って、その先は学校に入ってから選ぶことができる。笛吹高校を選ぶときに魅力がある学科がある。Authentic（本物）を見せる教育、また本物の専門家を育成する学校にできるとよい。
- ・先日、調理科がある充実した施設の私立の学校に行ってきた。その専門課程では、その世界で活躍する専門家を講師にむかえ授業を行い、一流のシェフなどになっている。中学生段階ではキャリア教育はできていないので、高校入学後に魅力ある系列があれば将来の進路選択ができる。今後も生徒の意向をくみ上げて、魅力ある系列づくりをしてもらいたい。

校 長

- ・様々なご意見をありがとうございました。
- ・包括連携の大学については、健康科学大学とは看護や介護の授業、山梨短期大学では食品や保育の授業で継続的な単位認定の授業なども考えていきたい。また、今後山梨大学との連携では、ワインについて食品化学科から進学できるようにも考えている。このような大学との連携を本校の活性化につなげていきたい。
- ・笛吹市の取り組みにも生徒が参画できればと思います。
- ・今日のご意見や生徒からの意見も取り上げながら、これからの笛吹高校の魅力化に向けてつなげていきたい。

5 連絡・報告

・今後の予定 第4回学校運営協議会 令和8年2月19日（木）

※年度当初の予定より変更となります。

6 おわりのことば